

# 第1・2学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月5日(金) 5校時  
児 童 1年 男子0名 女子2名 計2名  
2年 男子2名 女子4名 計6名  
指導者 安部 伊織

1 主題名 分けへだてのない心 【C-13 公正, 公平, 社会正義】

2 教材名 「つくえふき」 (学研 新・みんなのどうとく2年 P102~105)

## 3 主題設定の理由

### (1) 指導内容について

本指導内容は、民主主義社会の基本である社会正義の実現に努め、公正、公平に振る舞うことに関するものである。

社会正義とは、人として行うべき道筋を社会に当てはめた考え方である。社会正義の実現のためには、その社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識力を高め、思いやりの心を育むことが基本になければならない。集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるように努めなければならない。

しかし、人間は誰も自分と異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見などに偏った考え方をしたり、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりしてしまうことがある。こうした人間の弱さがいじめの問題などにつながる場合も少なくない。

指導に当たっては、所属する一人一人が確かな自己実現を図ることができる社会を実現するために、人間の弱さを乗り越えて、自らが正義を愛する心を育むようにすることが不可欠である。その上で、法やきまりに反する行為と同様に、自他の不公正を許さない断固とした姿勢をもち、集団や社会の一員として力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうと努力していく心を育てていくことが大切である。

### (2) 児童について

本学級は1年生2名、2年生6名の複式学級である。1年生は上級生の姿を見ながら、2年生は1年生の手本として行動することを意識しながら、正しいと思うことを進んで行動することができる児童が多い。また、学校や学級のきまりやめあてを意識し、みんなで守ろうと声を掛け合う姿も見られる。一方で、発達の特質である自己中心的な言動が見られることがある。例えば、自分と異なる考え方や感じ方を受け入れることができなかつたり、友達の好き嫌いで接し方に差をつけたりしてしまうことがある。

そこで本時では、不公平な行動をする側だけでなくされた側の思いに注目させたい。実際の場面を体験することで、不公平な扱いをされたときの不愉快さを感じさせたい。また、自分の都合だけで行動するのではなく相手の立場を考えて行動することの大切さを実感させることで、自他の不公正を許さない、よりよい集団を形成したいという心を育てたい。学校や学級での生活がより楽しく充実したものになるように、望ましい学級、学校生活をする上で大切なこと、正しいことは何かを、体験的な活動や交流を通して実感できるようにしたい。

### (3) 教材の特質について

本教材は、不平等な態度に接した「わたし」のもやもやする気持ちを考えることを通して、公正、公平の大切さについて学ぶねらいに迫るものである。

誰の机かによって拭き方を変えている「机当番」のゆうとの行為に対して、よくないという考え方と、

拭いていないわけではないからよいのではないかという考え方との間で、「わたし」はよくないという明確な理由をもてないでいるという内容である。

「机を拭いた」という点においては公平であり、掃除当番としては大きな問題にはならないのかもしれない。しかし、自分と親しいか親しくないかで「ゴシゴシ」と「サッサッ」に拭き方を変えるとというやり方に対しては、人によって受け取り方に大きな差を生じさせてしまうことに気が付く教材である。

#### 4 本時の指導

##### (1) ねらい

差別された側の心情を共感的に理解することを通して、自分と相手との関係だけで判断してはならないという心情を育てる。

##### (2) ねらいに迫る手立て

###### ① 自己を見つめる場の工夫

ア 不公平な扱いを受けた経験を想起させることで、実生活と教材とのつながりを意識させる。

イ 挿絵をモニターで表示しながら範読を行い、登場人物の様子や思いを確かめながら教材文を読めるようにする。

###### ② 物事を多面的・多角的に考える場の工夫

ア 不公平な行為を「する側」だけでなく「される側」の立場で考えられるように、教材文の場面を動作化して体験する。

イ グループで話し合わせることで、「ゴシゴシ」「サッサッ」と机を拭かれたときに感じることを共有するとともに、ホワイトボードにまとめたものを黒板に掲示することで可視化する。

###### ③ 自己の生き方についての考えを深める場の工夫

ア 終末部で「ゆうと」に伝えたいことを考えることで、自分と相手との関係だけで判断してはならないという思いを高める。

##### (3) 展開

段階	学習内容 (○発問 ・ 児童の反応例)	・ 指導上の留意点 ※研究とのかかわり ☆評価
導入 1 0 分	<p>1. 不公平な扱いを受けた経験を想起する。</p> <p>○「他の人にはしてあげていたのに、自分にはしてくれなかった」ということはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分だけ遊びに入れてもらえなかった。</li> <li>・ 他の友達には教えて自分には秘密にされた。</li> <li>・ ボールを自分にだけ貸してくれなかった。</li> </ul> <p>2. 教材文を読む。</p> <p>○どうして「わたし」は、気持ちが悪くもやしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゆうとさんが「サッサッ」と机を拭いたから。</li> <li>・ よくない掃除の仕方だと思ったから。</li> <li>・ やっていないわけではなく迷ったから。</li> </ul>	<p>・ 自分の経験を振り返ることで、本時で学習する道徳的価値に気付けるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">※ねらいに迫る手立て①ア</p> <p>・ 不公平な行動を見ている「わたし」の立場になって読むように注意させる。</p> <p>・ 挿絵をモニターで表示しながら範読を行い、登場人物の様子や思いを確かめながら教材文を読めるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">※ねらいに迫る手立て①イ</p>

	<p>3. 学習課題を設定する。</p> <p>どうして「わたし」はよくない気がしたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたし」が「よくない気」がしているのにも関わらず、はっきりとした理由が思い浮かばない様子に注目させることで学習課題につなげる。</li> </ul>
<p>展開</p> <p>2分5分</p>	<p>4. 「ゴシゴシ」拭くときと「サッサッ」と拭くときではどのような違いがあるか考える。</p> <p>○ゆうとさんは、どんな気持ちで掃除をしていたでしょう。</p> <p>〈ゴシゴシ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいにしたい。</li> <li>・友達に喜んでほしい。</li> <li>・きれいになって嬉しい。</li> </ul> <p>〈サッサッ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早く終わらせたい。</li> <li>・楽したい。</li> <li>・ちゃんとやっているからいい。</li> </ul> <p>○自分の机を「ゴシゴシ」「サッサッ」と拭かれたら、どんな気持ちになりますか。</p> <p>〈ゴシゴシ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいになって嬉しい。</li> <li>・気持ちがいいな。</li> <li>・すっきりした。</li> </ul> <p>〈サッサッ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌だなあ。</li> <li>・自分だけ汚いままで悲しい。</li> <li>・みんな同じようにして欲しい。</li> </ul> <p>5. ゆうとさんの行動を見て、どうして「わたし」はよくない気がしたのかを考える。</p> <p>◎ゆうとさんの行動を見て、どうして「わたし」はよくない気がしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人によって違いがあると嫌な思いをする人がいるから。</li> <li>・みんな同じように「ゴシゴシ」と拭いた方が、みんなが気持ちいいから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうとさんの「机を拭いていないわけではないからいい」という考えが、よくないという明確な理由をもてていない「わたし」の迷いであることを注目させる。</li> <li>・ゆうとさんの立場になって考えることで、「友達に喜んでほしい」「早く終わらせたい」など、ゆうとさんなりの理由があることを確かめる。</li> <li>・自分が「ゴシゴシ」「サッサッ」と机を拭かれたらどんな気持ちになるか、動作化をして考えさせる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">※ねらいに迫る手立て②ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拭く側の立場から拭かれる側の立場に視点を切り替えることで、不公平な扱いをされたときに不快な思いをすることを確認する。</li> <li>・グループで「ゴシゴシ」「サッサッ」と机を拭かれたときにどのように感じるか話し合い、ホワイトボードにまとめさせる。黒板に掲示することで可視化し比較できるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">※ねらいに迫る手立て②イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうとさんの行動について、様々な立場で考えたことを基にして、どうして人によって差をつけていけないのか考えさせる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">☆人によって差をつける行為がよくない理由を、自分なりに考えていたか。(発言)</p>
<p>終末</p> <p>10分</p>	<p>6. 振り返りをする。</p> <p>○あなたが「わたし」なら、ゆうとさんにどんなことを教えてあげたいですか。</p> <p>〈1年生〉 みんなのつくえをゴシゴシすると、みんながうれしいよ。</p> <p>〈2年生〉 さをつけてそうじをすると、いやな気持ちになる人もいるんだよ。みんなが気持ちよくなるように、みんなのつくえをゴシゴシとそうじしようね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書をもとに学習を振り返る。</li> <li>・ゆうとさんに伝えたいことを考えさせることで、これまでの学習で考えたことを整理するとともに、自分と相手との関係だけで判断してはならないという思いを高める。</li> </ul> <p style="text-align: center;">※ねらいに迫る手立て③ア</p> <p style="text-align: center;">☆誰に対しても公平に接することの大切さを考えていたか。(発言・記述)</p>

(4) 板書計画

どうして「わたし」は、よくない気がしたのだろうか。

なかよしでない人のつくえ



さをつけられると、いやな気持ち

ふくほう

- ・はやくおわらせたい。
- ・らくしたい。
- ・ちゃんとやっているからいい。

サツサツ

- ・ほかの人とちがいがあってはいやだ。
- ・じぶんだけきれいにされないのはかなしい。
- ・みんなおなじようにしてほしい。

ふかれるほう

人によってちがいがあっていやな思いをする。

じぶんのつくえ  
なかよしの子のつくえ



つくえふいき

みんなぴかぴかして気持ちいい

ゴシゴシ

- ・きれいにしたい。
- ・ともだちによるこんでほしい。
- ・きれいになってうれしい。

ゴシゴシ

- ・ぴかぴかだと嬉しい。
- ・クラスみんなが気持ちいい。
- ・きれいなままつかおうと思う。

(5) ワークシート



そうじしようね。

つくえをゴシゴシと

二年生・・・さをつけてそうじをすると、いやな

気持ちになる人もいるんだよ。みんな

が気持ちよくなるように、みんなの

一年生・・・みんなのつくえをゴシゴシすると、

みんながうれしいよ。

あなたが「わたし」なら、ゆうとさんにどんなことを教えてあげたいですか。

どうとくノート ( )

「つくえふいき」

がっ

なまえ ( )

( )